

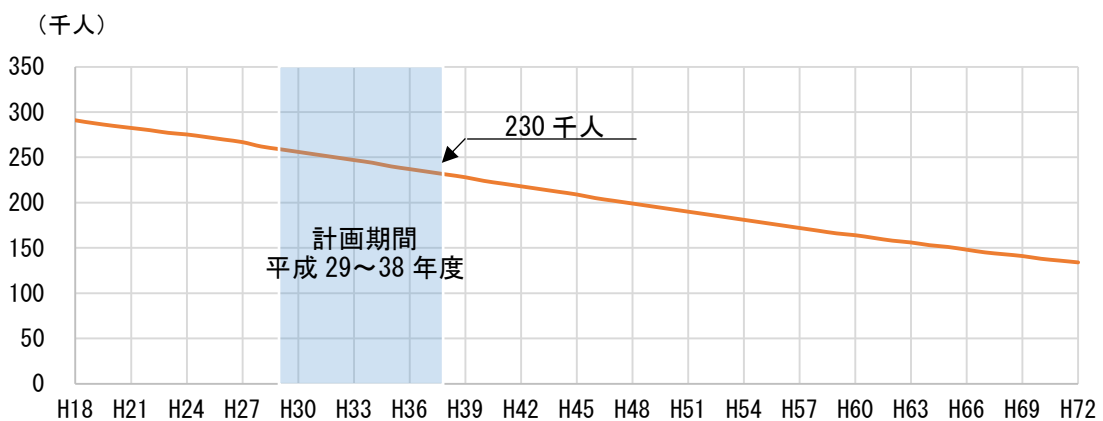
## 第4章 上下水道事業の将来の事業環境

### 1 将来の外部環境

#### (1) 本市の将来人口

函館市人口ビジョン（平成27年10月）では、今後も本市の人口は減少傾向が続く見通しとなっており、本ビジョンの計画最終年である平成38年の推計人口（中位）は230千人となっています。

【函館市の将来人口】



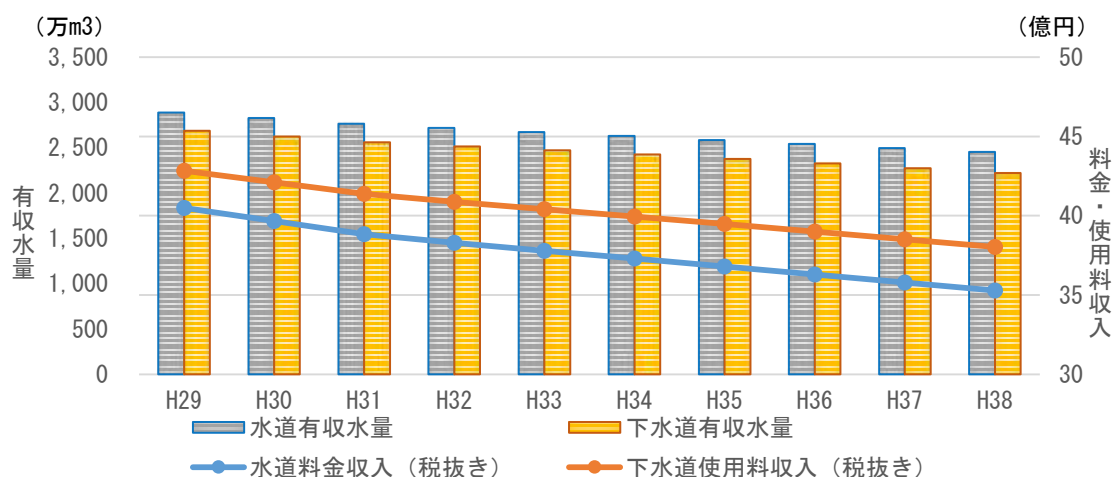
#### (2) 水需要の見通し

人口の減少や節水型機器の普及などにより、水需要は減少が続くことが見込まれ、1日当たりの水道有収水量は、平成27年度の80,949 $\text{m}^3$ から平成38年度には67,000 $\text{m}^3$ 程度に減少する見込みです。同様に、1日当たりの下水道有収水量も、平成27年度の75,747 $\text{m}^3$ から、平成38年度には61,000 $\text{m}^3$ 程度に減少する見込みとなっています。このため、今後の上下水道施設の更新にあたっては、水需要に対応した施設規模の適正化を図り、効果的な施設の更新を進める必要があります。

#### (3) 水道料金収入・下水道使用料収入の見通し

水需要の減少が見込まれることから、水道料金・下水道使用料収入は減少傾向となる見通しとなっています。このため、今後においても引き続き効率的な事業の運営に努める必要があります。

【水需要, 料金・使用料収入の見通し】



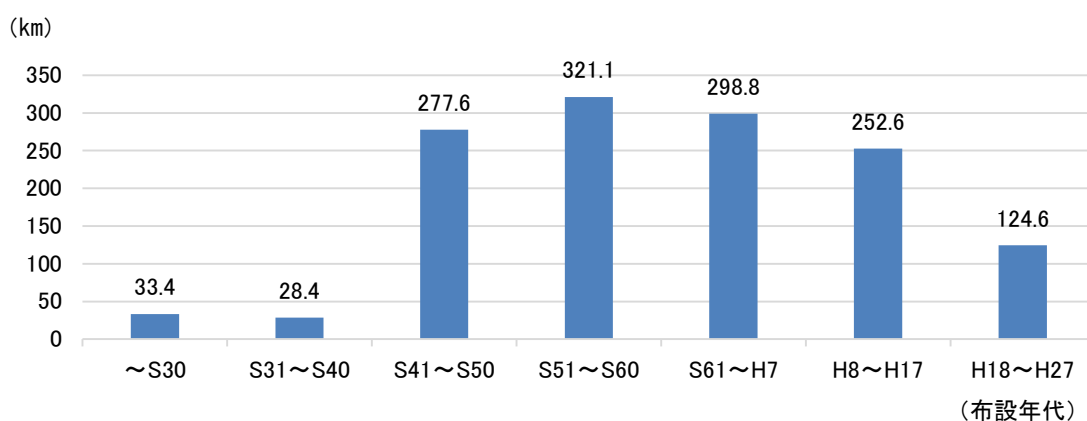
## 2 将来の内部環境

### (1) 水道施設の状況

本市では、主に昭和40年代以前に整備された老朽管路の更新を進めていますが、今後は基幹管路を含むダクタイル鋳鉄管などの管種についても、劣化状況などに応じて更新が必要となります。

浄水場などの施設についても、高度経済成長期の急速な水需要の増加に対応するために拡張整備してきたことから、今後は老朽化する施設や設備の増加が見込まれます。

【年代別水道管路延長内訳】

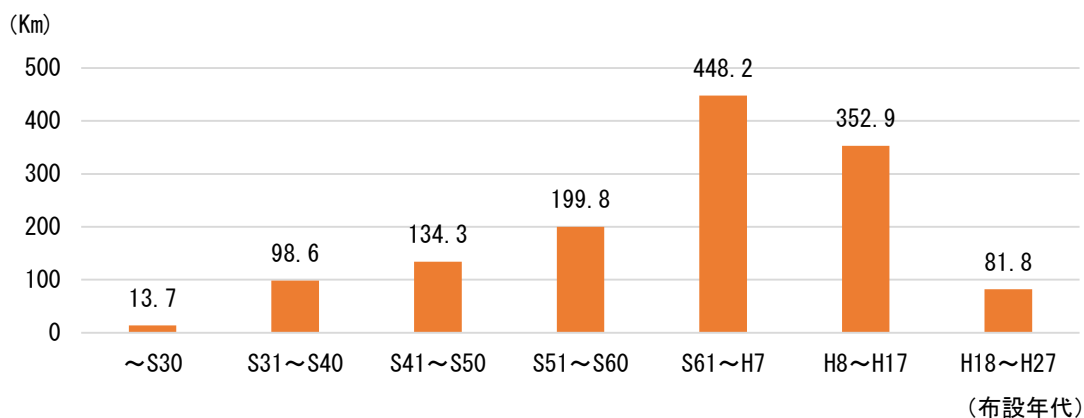


## (2) 下水道施設の状況

本市では、国の支援制度を利用し、長寿命化計画の対象となる布設後50年以上経過した管渠について、劣化状況に応じて計画的な更新を行ってきましたが、今後は更新の対象となる管渠の増加が見込まれます。さらには、処理区域の拡大に伴う流入水量の増加に合わせて段階的に施設を整備してきた処理場やポンプ場についても、管渠と同様に老朽化する施設や設備の増加が見込まれます。

また、今後も国の支援制度を利用し、計画的な下水道施設の更新を行うためには、長期的な施設の状況を予測し、点検、調査、修繕、改築を一体的に計画する「下水道ストックマネジメント\*計画」を策定する必要があります。

【年代別下水道管渠延長内訳】



### 3 これからの上下水道事業の課題

「上下水道事業の現況と課題」や「将来の事業環境」の内容から、これからの上下水道事業が取り組むべき課題をまとめました。

区分	取り組むべき課題
水道	<ul style="list-style-type: none"><li>○安心で安定した水の確保</li><li>○水質管理体制の強化</li><li>○増加する老朽化施設への対策</li><li>○配水池容量の確保</li><li>○施設の耐震化と災害対策</li><li>○水需要の減少に伴う施設規模の適正化</li><li>○貯水槽水道の衛生管理の徹底</li><li>○温泉の安定供給</li></ul>
下水道	<ul style="list-style-type: none"><li>○汚水管の整備</li><li>○水洗化の普及促進</li><li>○雨水管の整備</li><li>○増加する老朽化施設への対策</li><li>○施設の耐震化と災害対策</li><li>○水需要の減少に伴う施設規模の適正化</li><li>○公共用水域の水質保全の取組の継続</li></ul>
経営環境	<ul style="list-style-type: none"><li>○料金・使用料収入の減少</li><li>○効率的な事業運営の継続</li><li>○環境負荷低減の取組</li></ul>